



輸出品目別レポート（米）

■品目説明

世界で生産されている米は、中・短粒種のジャポニカ米と長粒種のインディカ米に大別される。日本で食されているのはジャポニカ米だが、世界で多く生産・消費されているのはインディカ米である。日本において、米は北海道から沖縄までの各都道府県で栽培されている数少ない農産物である。現在までに病害虫や冷害に耐性があるものや、多収量で食味に優れているものなど、多種多様な品種が開発され、主食用、酒米用などを合わせると 500 種以上が作られてきた。

近年、我が国における主食用米の需要量は一貫して縮退傾向にあり、少子高齢化や人口減少、食の多様化などを背景に毎年 10 トン程度減少している。農林水産省では、新たな需要の取込みに向けて、米飯学校給食の推進・定着や多面的な情報発信、食の外部化への対応など、さまざまな方策を打ち出している。

2023 年産の主食用米の収穫量は、661 万トン（前年比 1% 減）となった。都道府県別収穫量をみると、1 位の新潟県は 51 万 4,100 トン（同 6% 減）、2 位の北海道は 47 万 5,900 トン（同 2% 減）、3 位の秋田県は 38 万 5,800 トン（前年比と同程度）、4 位の宮城県は 32 万 3,800 トン（同 6% 増）、5 位の山形県は 30 万 8,600 トン（同 1% 減）であった（農林水産省「[作況統計調査（水稻（全国農業地域別・都道府県別））（2024 年 2 月）](#)」）。

関連する業界団体として、[日本米穀商連合会](#)、[全国米穀販売事業共済協同組合](#)、[全日本米・米関連食品輸出促進協議会](#)などがある。

■貿易概況

2023 年の米の小売市場規模は、全世界で 959 億 9500 万ドル（前年比 5.7% 増）とされており、今後も堅調に成長していくと予測されている。

日本からの米の輸出は、その数量の大部分が政府米を利用した食糧援助（KR）として行われている。アフリカ、アジアを中心とした国への食糧援助および国連世界食糧計画（WFP）を通じた援助などによる。食糧援助を含めた米の輸出数量は、2023 年は 4 万 3,333 トン（前年比 41.7% 増）であった（表 1）。

このうち 2023 年の商業輸出は、輸出額 94 億 1,100 万円（同 27.5% 増）、輸出量 3 万 7,186 トン（同 28.5% 増）と金額、数量ともに増加した（表 2）。輸出相手国・地域別では数量ベースで香港向け 11,301 トン（同 14.4% 増）、米国向け 6,883 トン（同 54.4% 増）と前年に引き続き大幅な伸びをみせ、シンガポール向け 5,593 トン（同 2.6% 減）、さらに台湾向け 3,116 トン（同 23.1% 増）などが続いた。

なお、2024 年の米の輸出額は、120 億 2,900 万円（同 27.8% 増）であった（出所：農林水産省「[令和 7 年（2024 年）農林水産物・食品の輸出額](#)」）。



▼表1：日本の米輸出

| | 2021年 | | 2022年 | | 2023年 | | 前年比 | |
|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|--------|-------|
| | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 |
| 香港 | 19,281,985 | 8,938 | 17,741,095 | 9,880 | 18,665,419 | 11,301 | 5.2 | 14.4 |
| 米国 | 5,679,937 | 2,244 | 8,737,349 | 4,459 | 12,532,895 | 6,883 | 43.4 | 54.4 |
| シンガポール | 9,332,242 | 4,972 | 9,097,519 | 5,742 | 8,187,577 | 5,593 | △ 10.0 | △ 2.6 |
| 台湾 | 5,192,091 | 1,907 | 5,387,051 | 2,532 | 6,229,698 | 3,116 | 15.6 | 23.1 |
| カナダ | 631,357 | 210 | 791,260 | 382 | 2,787,419 | 1,629 | 252.3 | 326.4 |
| 全世界 | 63,381,029 | 43,119 | 56,461,576 | 30,588 | 69,160,895 | 43,333 | 22.5 | 41.7 |

注：対象はHSコード 1006

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

▼表2：日本の米輸出（商用米）

| | 2021年 | | 2022年 | | 2023年 | | 前年比 | |
|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 |
| 香港 | 2,118 | 8,938 | 2,344 | 9,880 | 2,630 | 11,301 | 12.2 | 14.4 |
| アメリカ | 625 | 2,244 | 1,169 | 4,459 | 1,768 | 6,883 | 51.2 | 54.4 |
| シンガポール | 1,025 | 4,972 | 1,201 | 5,742 | 1,153 | 5,593 | △4.0 | △2.6 |
| 台湾 | 575 | 1,907 | 716 | 2,532 | 877 | 3,116 | 22.5 | 23.1 |
| カナダ | 69 | 210 | 104 | 382 | 394 | 1,629 | 278.8 | 326.4 |
| 全世界 | 5,933 | 22,833 | 7,382 | 28,928 | 9,411 | 37,186 | 27.5 | 28.5 |

注：対象はHSコード 100610, 100620, 100630, 100640（政府による食糧援助を除く）

出所：農林水産省「商業用の米の輸出数量等の推移」

米国や香港などにおいては、日本産米を扱うおにぎりや寿司店などの日本食レストランの増加により、外食向けを中心に需要が増加した。特に、おにぎりは各国・地域で広がりを見せており、日本産米で作ったおにぎりは、冷えても柔らかさと粘りがあり、米そのもののおいしさを伝えることが可能である。また、テイクアウトが可能で手軽に食べられ、外食に比べてコストパフォーマンスもよいことから、近年海外でも人気となっている（農林水産省「米をめぐる状況について」（2025年5月））。

また、米・パックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品は、農林水産省の「輸出拡大実行戦略」（2025年5月）にて、輸出重点品目として選定されており、2030年までに全体922億円（うち米国216億円、EU・英国176億円、シンガポール・台湾・香港141億円など）を目標としている。国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策として「中食・外食などの日系企業の海外展開を促進し、日本産米の利用拡大を図る」や「有機食品への関心の高まりを切り口に有機米の販売促進を図る」などが挙げられている。

加えて、改正食料・農業・農村基本法に基づき、2025年4月に初めて閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では、日本食のプロモーションや商流構築、日系外食産業の海外進出などを通じて、輸出重点品目である「米・パックご飯・米粉及び米粉製品」において、35.3万トン（原料米換算）の輸出数量の達成を目指している。



全日本米・米関連食品輸出促進協議会は、認定農林水産物・食品輸出促進団体として、海外における販路開拓活動を積極的に取り組んでいる。

■海外事情

●香港

2023年の香港の米輸入額は前年比5.0%減の2億3,590万ドル、輸入量は同6.9%減の27万441トンであった（表3）。主要輸入相手国の動向をみると、1位のタイは金額ベースで1億4,146万ドル（前年比7.2%減）、数量ベースで15万2,825万トン（10.4%減）であり、それぞれ全体の59.9%、56.5%を占めた。2位のベトナムは金額ベースで3,926万ドル（同0.8%減）、数量ベースで6万817トン（同3.7%減）であり、以下日本、中国、カンボジアと続いた。

▼表3：香港の米輸入

（単位：ドル、トン、%）

| | 2021年 | | 2022年 | | 2023年 | | 前年比 | |
|-------|-------------|---------|-------------|---------|-------------|---------|-------|--------|
| | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 |
| タイ | 147,743,195 | 156,785 | 152,492,392 | 170,613 | 141,468,463 | 152,825 | △ 7.2 | △ 10.4 |
| ベトナム | 49,506,200 | 75,628 | 39,578,783 | 63,181 | 39,266,173 | 60,817 | △ 0.8 | △ 3.7 |
| 日本 | 18,972,218 | 8,696 | 18,884,442 | 10,192 | 18,348,264 | 10,896 | △ 2.8 | 6.9 |
| 中国 | 16,530,503 | 21,179 | 17,213,196 | 22,518 | 16,987,567 | 21,936 | △ 1.3 | △ 2.6 |
| カンボジア | 8,028,243 | 10,325 | 6,674,330 | 9,139 | 9,037,549 | 12,246 | 35.4 | 34.0 |
| 全世界 | 255,479,741 | 289,267 | 248,417,176 | 290,385 | 235,907,330 | 270,441 | △ 5.0 | △ 6.9 |

注：対象はHSコード 1006

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

一般社団法人全日本米・米関連食品輸出促進協議会「令和5年度版日本産米・米加工品輸出ハンドブック（香港）」（2024年6月）によると、以下のようにまとめている。

- ・香港で消費される米は長粒種が一般的だが、近年では日系のスーパーマーケットや日本食レストランの数が増えており、日本産米の需要が高まっている。
- ・日本産米自体は高品質で安心な印象を持たれているが、産地・品種・銘柄よりも価格が重視される傾向にある。
- ・香港には、多様な食品ECサイトが存在し、中には日本産米を取り扱うものもある。近年では、日本産食品を日本から香港へ直送するネット通販サイトの数やその会員数は増加している。

また、JFOODO「アジア6カ国・地域及び米国における農林水産物・食品8品目についての流通実態及び消費者調査」（2022年7月）は、以下のようにまとめている。

- ・コロナ禍により、自宅での調理人気が増し、主食の米消費が増加した。特に若い世代では、日本食で日本産米が消費される機会が増えたため、日本産米の消費が増えた。
- ・11月から1月、特に春節前は香港で自家消費やギフトのための買いだめが発生する。そのため、香港市場での日本産米の通常のピークシーズンは冬となっている。



●米国

2023年の米国の米輸入額は前年比13.0%増の13億819万ドル、輸入量は3.2%増の133万7,698トンであった（表4）。主な輸入相手国は1位がタイで、輸入額と輸入量はそれぞれ6億6,579万ドル（同6.5%増）、75万6,145トン（同0.6%増）、2位がインドで3億4,983万ドル（同17.0%増）、28万8,716トン（同5.5%増）、3位がパキスタンで5,751万ドル（同51.5%増）、3万4801トン（同39.3%増）であった。11位の日本についても、輸入額・量ともに伸長した。

▼表4：米国の米輸入

（単位：ドル、トン、%）

| | 2021年 | | 2022年 | | 2023年 | | 前年比 | |
|---------|-------------|---------|---------------|-----------|---------------|-----------|------|------|
| | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 |
| タイ | 501,248,425 | 543,790 | 624,869,480 | 751,524 | 665,797,330 | 756,145 | 6.5 | 0.6 |
| インド | 204,774,421 | 201,989 | 298,993,340 | 273,608 | 349,838,018 | 288,716 | 17.0 | 5.5 |
| パキスタン | 33,862,875 | 25,005 | 37,974,782 | 24,985 | 57,515,678 | 34,801 | 51.5 | 39.3 |
| 中国 | 24,056,139 | 65,015 | 32,933,015 | 85,953 | 44,661,025 | 85,478 | 35.6 | △0.6 |
| ブラジル | 18,842,290 | 39,988 | 21,655,753 | 43,552 | 28,624,920 | 48,445 | 32.2 | 11.2 |
| 日本（11位） | 5,299,294 | 2,276 | 8,523,841 | 4,261 | 12,803,158 | 7,205 | 50.2 | 69.1 |
| 全世界 | 876,362,699 | 957,078 | 1,157,815,287 | 1,296,145 | 1,308,196,315 | 1,337,698 | 13.0 | 3.2 |

注：対象はHSコード 1006

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

一般社団法人全日本米・米関連食品輸出促進協議会「令和5年度版日本産米・米加工品輸出ハンドブック（米国）」（2024年6月）によると、以下のようにまとめている。

- ・日本産米の競合は、カリフォルニア州で生産される中・短粒種である。
- ・米国ではアジア料理の他、中南米料理も人気があり、ライス&ビーンズやメキシカンライスなどのメニューで米の消費量に寄与している。
- ・ジャポニカ米は日本料理や韓国料理などを中心に消費されているが、米国で消費される寿司の95%は米国産の中・短粒種である。日本産米の使用はまだ一部の高級レストランが中心で、開拓の余地がある。
- ・日本産米は主に日系またはアジア系スーパーで販売されており、オンラインでも購入できる。

●そのほか

- ・ジェトロ 世界は今「ロサンゼルスでおにぎりブームのワケ - パックご飯とのりを米国で売る」（2023年3月）
- ・ジェトロ 世界は今「ドジャースにおにぎり参上！ ロサンゼルス発 米を米国へ」（2024年7月）
- ・JFOODO「香港・シンガポールで日本産米に関する現地消費者意識調査を実施 一香港は



96.1%、シンガポールは99.1%の“今後の喫食意向”を調査で把握ー」(2024年3月)

- ・ジェトロ「CPTPPへの加入を前にロンドンで日本産コメ・コメ加工品商談会を開催(日本、英国)(2024年11月25日記事)」
- ・一般社団法人全日本米・米関連食品輸出促進協議会「日本産米・米加工品輸出ハンドブック(19か国・地域調査)」

ジェトロ「現地市場価格調査」では、米の主要都市における市場価格をまとめている。輸入規制、輸入手続きに関しては、ジェトロのポータルにて、香港、台湾、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、インド、米国、カナダ、オーストラリア、EU、英国、ロシア、UAE、メキシコをまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。